新潟大学 NIIGATA UNIVERSITY　高知県立牧野植物園 The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden　京都大学 KYOTO UNIVERSITY

２０２６年２月２６日

新　潟　大　学
高知県立牧野植物園
京　都　大　学

新種のギボウシ属植物を発見

－他種と混同されていた高知県の集団を新種と確認－

新潟大学教育学部の志賀隆准教授、高知県立牧野植物園植物研究課の藤井聖子氏、京都大学大学院人間・環境学研究科の阪口翔太助教および韓国の研究チームからなる国際共同研究グループは、高知県で見られるギボウシ属の植物が、これまで知られていた種とは異なる新種であることを明らかにし、トサノカンザシギボウシ（*Hosta pseudonakaiana*）として新たに記載しました。本研究では、日本および韓国に分布するカンザシギボウシの仲間を対象に、詳細な形態比較と DNA 解析を統合した検討を行いました。その結果、これまで他種と混同されていた高知県の集団が、他種とは明確に区別される独立した新種であることが明らかとなりました。また、長年混同されていた日韓の近縁種の分類も見直し、和名の整理を行いました。

【本研究成果のポイント】

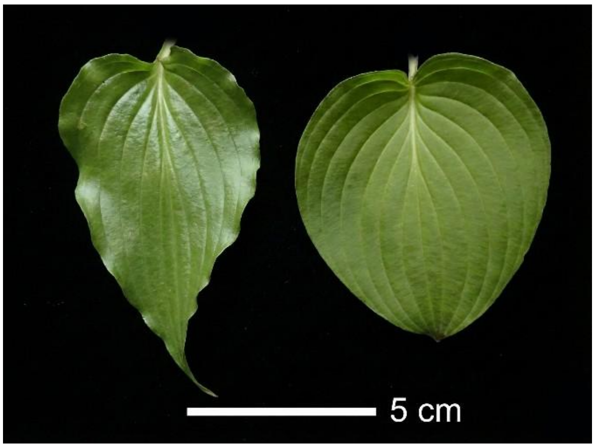
- 高知独自の「新種」を発見：高知県と仁淀川水系でこれまで「カンザシギボウシ」の一型だと思われていた植物が、DNA 解析の結果、世界でこの地域にだけ分布する新種であることを確認。トサノカンザシギボウシ(*Hosta pseudonakaiana*）として記載した。
- 日韓の種は「別種」である：「カンザシギボウシ」とまとめられていた日本のイヤギボウシ（*H. capitata*）と韓国のカンザシギボウシ（*H. nakaiana*）は、遺伝的に明瞭に異なる別種であることが明らかになった。
- 和名を整理：「カンザシギボウシ」は韓国固有種 *H. nakaiana* に対して提唱された和名であること、日本固有の *H. capitata* には、記載時に提唱された「イヤギボウシ」という和名があることから、本研究では、*H. capitata* をイヤギボウシ、*H. nakaiana* をカンザシギボウシと整理した。
- 韓国でも新変種を発見：韓国・莞島（ワンド）の集団も、遺伝的・形態的に区別できることから、カンザシギボウシの新変種ワンドギボウシ（*H. nakaiana* var. *wandoensis*）として記載した。

高知県で発見されたギボウシ属の新種　トサノカンザシギボウシ *Hosta pseudonakaiana*
（撮影：藤井聖子）

Ⅰ．研究の背景

Hosta capitata（イヤギボウシ）は、徳島県祖谷地方で採集された標本をもとに、中井猛之進により 1930 年に記載されました。一方、*Hosta nakaiana*（カンザシギボウシ）は、韓国・全羅南道白雲山で採集された標本をもとに、前川文夫が 1935 年に記載しています。しかしその後、これらは同一種とみなされ、*H. nakaiana* は *H. capitata* の異名とされ、「カンザシギボウシ」は日本と韓国に隔離分布する１種と理解されてきました。

一方で、高知県に自生する「カンザシギボウシ」とされてきた集団は、他地域のものと比べて葉が細長いことが、一部の植物研究家の間で以前から認識されていました。また韓国においても、花序の形態が明らかに異なる集団の存在が確認されていました。これらは長らく「変異の範囲」と考えられてきましたが、その妥当性は、これまで十分に検証されていませんでした。



葉身の比較　左：トサノカンザシギボウシ、右：イヤギボウシ

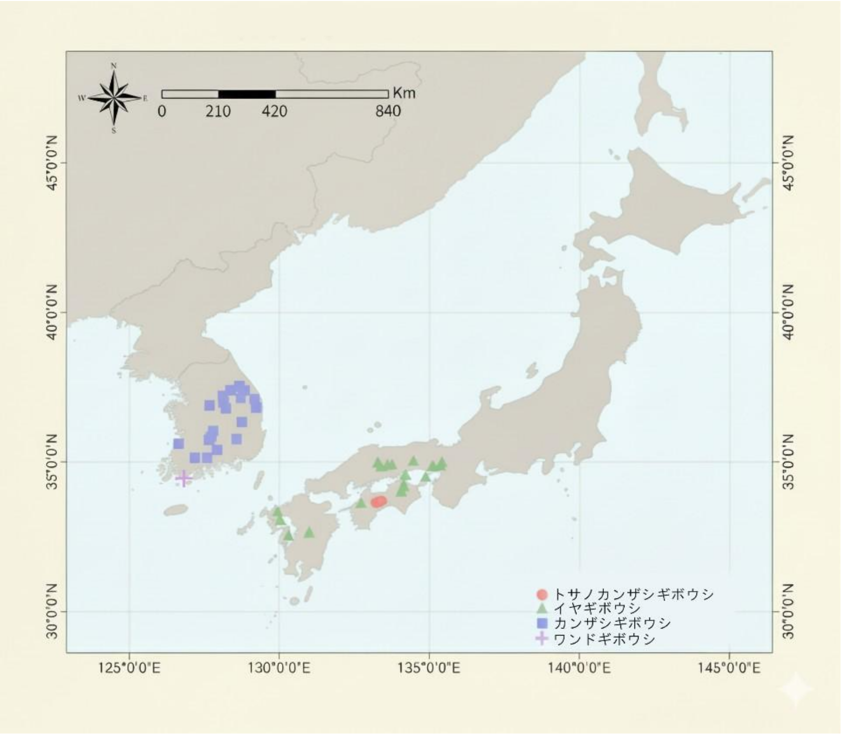
Ⅱ．研究の概要と成果

本研究は、丁寧な形態評価と MIG-seq 法によって得られたゲノム縮約情報を用いた高解像度分子解析を組み合わせることで、信頼性の高い分類の改訂を行った点が大きな特徴です。これにより、*H. capitata*（イヤギボウシ）と *H. nakaiana*（カンザシギボウシ）はそれぞれ日本

および韓国固有の独立した系統であることが明らかになりました。

さらに、高知県の集団は、日本各地の *H. capitata*（イヤギボウシ）と比べて形態的・遺伝的に明確に異なっていたため、新種 *Hosta pseudonakaiana*（トサノカンザシギボウシ）として記載しました。

また、韓国・全羅南道莞島（ワンド）の集団は、*H. nakaiana*（カンザシギボウシ）の中でも独自の特徴をもつことから、新変種 *Hosta nakaiana* var. *wandoensis*（ワンドギボウシ）を記載しました。



イヤギボウシ節の各種の分布
出典：Oh et al.(2026)　Frontiers in Plant Science, Figure 8 より改変（CC BY 4.0）

Ⅲ．今後の展開

四国、特に高知県は、世界のギボウシ属植物の多様性の中心地のひとつであり、新種の発見が相次いでいます。今回の成果は、関係機関との連携のもと、長年にわたり継続されてきた現地調査および標本資料の蓄積が、研究の重要な基盤として活用された結果でもあります。新潟大学、高知県立牧野植物園、京都大学は、今後も関係機関や地域の植物研究家と連携し、植物相の解明を通じて、生物多様性の保全および基礎生物学研究の発展に貢献していきます。

Ⅳ．研究成果の公表

本研究成果は、2026 年 1 月 21 日、科学誌「Frontiers in Plant Science」に掲載されました。

【論文タイトル】Delimiting species boundaries
in *Hosta* section *Capitatae* (Asparagaceae) using MIG-seq and morphological analyses: taxonomic revision with new taxa from Korea and Japan

【著者】Ami Oh, Ji Young Yang, Won Seok Lee, Takashi Shiga, Seiko Fujii, Shota Sakaguchi, Shukherdorj Baasanmunkh, Seung-Chul Kim, Hyeok Jae Choi
【doi】10.3389/fpls.2025.1668561

Ⅴ．謝辞

本研究は、環境省・（独）環境再生保全機構の環境研究総合推進費[4-2001]により行われました。

本件に関するお問い合わせ先
【研究に関すること】
新潟大学　教育学部
准教授　志賀隆
E-mail：shiga@ed.niigata-u.ac.jp

高知県立牧野植物園　植物研究課
藤井聖子

京都大学 人間・環境学研究科
助教　阪口翔太

【広報担当者】
新潟大学　広報事務室
E-mail：pr-office@adm.niigata-u.ac.jp
TEL：025-262-7000

高知県立牧野植物園　広報課

京都大学　広報室